

第 16 章	社会(公民)	名前:	日 付	No.01
	地球社会			

[問題 1]

次の文の①、②に適語を入れよ。

国際社会は主権をもつ主権国家で構成されている。主権は他国から支配や干渉されない(①)の原則や、全ての国々は平等であるという(②)の原則からなっている。

[解答欄]

①内政不干涉	②主権平等
--------	-------

[解説]

【主権】

- ・ 内政不干涉の原則
- ・ 主権平等の原則

世界には **195** の国があるが(2011 年末現在)、それぞれの国は**主権**をもっている。主権は、他国から支配や干渉を受けない権利(**内政不干涉の原則**)、他の国々と対等である権利(**主権平等の原則**)からなっている。主権の確立した国を**主権国家**という。

[問題 2]

文中の()にあてはまる語句を、下の[]の中から選びなさい。

国家が対外的に独立を保つ権利を(①)といい、(①)の確立した国を(①)国家あるいは独立国家という。(①)国家は、他国から支配や(②)を受けず、他国と(③)の権利をもつことが認められている。国際社会における各国の交わりにはルールが必要となる。このルールを国際法といい、国際(④)と、国家間で結ばれる(⑤)とがある。

[対等 条例 主権 自治 慣習法 干渉 条約]

[解答欄]

①主権	②干渉	③対等	④慣習法	⑤条約
-----	-----	-----	------	-----

[解説]

国家がたがいに**主権**を尊重し合っていくために、国際社会には守らなければならないルール(**国際法**)がある。国際法は、国と国とが結ぶ条約や、長い間の慣行から法となった**国際慣習法**(例えば、公海自由の原則)からなりたっている。

【国際法】

国際法〔**国際慣習法**
条約〕

[問題 3]

国際法(国際社会のルール)は、大きく 2 つのものに分けられる。次の①、②にあてはまるものを答えなさい。

- ① 国家間で話し合わせ、正式な取り決め(約束)として成立する。
- ② 「公海自由の原則」のように、国際社会における「ならわし」としての決まり。

[解答欄]

①条約	②国際慣習法
-----	--------

[問題 6]

経済水域では、沿岸国に 2 つの優先的な権利が与えられている。その 2 つとは何か。

[解答欄]

水産資源と海底の地下資源

[問題 7]

今日、世界の国々の多くは相互に外交関係を保ち、国際社会を形成している。国際社会は(A)(①)国家をその基本的な構成単位として成立しており、国家の(①)が及ぶ範囲を(②)という。(②)は、領土・領海・領空からなり、日本の領海は、(③)海里である。経済水域の外側が(④)で、(B)どの国の船でも自由な航行が保障されている。

- (1) 文中の()に適語を入れよ。
- (2) 近年、経済水域と呼ばれる水域が設定されているが、これは一般に何海里か。
- (3) 下線部(A)について、他国に一切干渉されない権利があるが、この原則を何というか。
- (4) 下線部(B)のような原則を何というか。
- (5) 国際社会に必要な、守らなければならない国内法のような規範を何というか。

[解答欄]

(1)①主権	②領域	③12	④公海	(2) 200 海里
(3) 内政不干渉の原則	(4) 公海自由の原則	(5) 国際法		